

ドクターカー運行開始！

ドクターカー出動の流れ



電話で患者さんの情報を聞く様子

① ドクターカー出動要請

消防署が、患者さんの症状・容態などの情報をもとに、ドクターカーの出動が必要であると判断した場合に、当院の救急外来に出動要請の依頼が入ります。



ドクターカーに向かって走る様子

② ドクターカー出動

医師・看護師・救急救命士がドクターカーに乗り込み、患者さんのもとへ向かいます。原則、出動要請を受けてから2分以内に動きます。



ドッキングの様子

③ 現場／ドッキングポイントで患者さん収容

先に到着している重症患者さんを収容した救急車から、ドクターカーへ乗せ替えをします。



車内で治療中の様子

④ 患者さんを搬送

ドクターカーの中で適切な治療・処置を行いながら、当院をはじめとする適切な医療機関へ患者さんを搬送します。



病院到着

ドッキングポイント

現場から搬送された患者さんを乗せた救急車と、病院から出発したドクターカーが合流する場所のことです。宇都宮・塩谷エリアの公共施設やコンビニ、飲食店などにご協力いただいております。ドッキングポイントは、現在、宇都宮市だけでも約120箇所あります。

Point



はじめに

当院は、栃木県救命救急センターを受託運営しており、3次救急医療機関として重症の救急患者の受け入れを行っています。この度、令和2年10月1日より宇都宮市消防局・塩谷広域行政組合消防本部と協定を結びドクターカーの運行を開始しました。

ドクターカーとは

ドクターカーは、患者さんのいる現場もしくは搬送途上の救急車へ、医師と看護師が出動する車両です。病院到着前に救急外来で行うような様々な処置や、ECMO(エクモ)の導入・重症外傷に対する緊急手術などの専門的治療をいち早く開始することが目的です。

救急医療の現場では、救急車で患者さんを搬送するも、病院に到着するまで体力が持たず、搬送途中で命を失うケースがあります。1分1秒でも早く治療を始めることが、患者さんの命を救うこと、また、後遺症を減らすことに直結します。今回は、当院のドクターカーについて詳しくご紹介していきます。

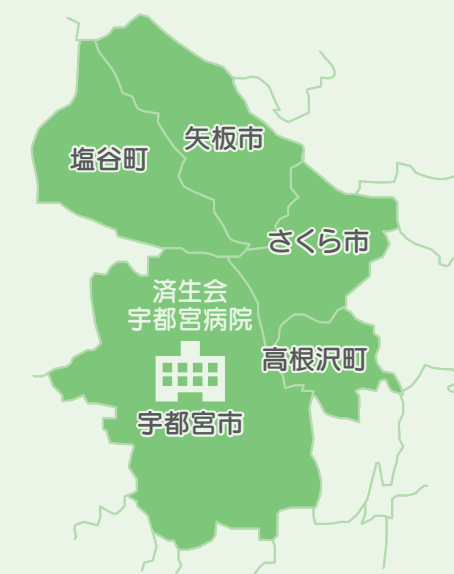
救命救急センター長(兼)
救急・集中治療科
主任診療科長代理

小倉 崇以 医師

おぐら・たかゆき



ドクターカーの出動範囲



出動範囲は上記のエリアとなります。

ドクターカーを支える人たち

ユーセット
U-CCETT (Utsunomiya Critical Care & ECMO Transport Team)



U-CCETT の皆さん

ドクターカーを安全に運用していくために、当院では U-CCETT (ユーセット) というチームを結成して活動しています。

重症患者や ECMO 装着患者の管理・搬送は、非常に高度な知識と技術を要します。また、安全な医療を実現するためには、医師以外の力も必要不可欠です。このチームは、救急医療・集中治療の両分野に長けるスペシャリストを含む、病院内外で診療を行う能力を兼ね備えている医師や看護師、臨床工学技士や救急救命士の多職種で構成されたチームです。

病院外での診療や重症患者・ECMO 患者の搬送を一括して行うのはもちろん、当院への患者搬送のみならず、他院間の搬送や県境をまたぐ長距離の重症患者搬送についても、当該施設に協力しています。

私は、ドクターカーナースの一員として活動しております。ドクターカーナースの役割は、安全かつ迅速な医療処置の実施・介助と、患者さん、ご家族への看護ケアを病院前（プレホスピタル）の現場から実践することです。これまでのドクターカー活動で、早期治療介入により危機的状況を脱し、延いては、社会復帰した患者さんの姿に、活動の成果を実感します。慣れない現場で悩むことも多くありますが、現場救急隊の皆さんや、搬送後の患者さん治療に携わるスタッフ、多職種の協力に支えられ活動しています。地域の方々に安心・安全な医療を提供できるようスタッフ一同頑張りますのでよろしくお願いいたします。

救急看護認定看護師

中村 高寛 看護師

なかむら・たかひろ

私は、前任地の救命救急センターで約 10 年間、ドクターカーやドクターヘリといった病院前（プレホスピタル）診療に取り組んできました。その経験を活かし、当院のドクターカー事業の立ち上げを行いました。病院前診療は、脳卒中や心筋梗塞などの後遺症軽減、交通事故などによる重症外傷の予後改善など、これまで救えなかった命の救命が期待できます。ドクターカーの活動は、1 分 1 秒を大切に、全力で重症患者さんの救命、予後改善に向かいます。ドクターカーの運用が開始し、3 か月（令和 2 年 12 月現在）が経過しましたが、心肺停止からもとの生活に戻れた患者さんや、適切な処置により心肺停止を回避し後遺症の軽減につながった患者さんもいます。宇都宮市および周辺市町村の皆さまが安心して生活できるよう、地域救急医療発展に貢献できるよう、われわれスタッフ一同真摯に取り組んでまいります。応援よろしくお願いいたします。

救急・集中治療科

藤田 健亮 医師

ふじた・けんすけ

済生会宇都宮病院の ドクターカーだからできること

当院のドクターカーは、病院の中（救命救急センター）と同様の治療が行える“移動型救命救急センター”をコンセプトにしています。



CHECK 1 大型の車両だから患者さんの搬送・手術ができる！

国内のほとんどのドクターカーは普通乗用車タイプであり、医師と看護師が現場へ向かい、救急車に乗り込んで患者さんを病院に運ぶというものです。一方で、当院のドクターカーは大型車両を用いているため、患者さんを車内に収容し、搬送を行うことができます。また、十分なスペースと資器材を備えているため、救急外来で行うほとんどの処置や手術を行うことも可能です。

CHECK 2 輸血ができる！

当院ドクターカーの特徴のひとつに、輸血を行えることがあります。特殊な装置を用い、病院外での輸血施行を可能にしました。重症の外傷患者救命には、出血死に至る前の迅速な手術と輸血が必要です。当院ドクターカーでは、熟練の救急医がドクターカー内でそれらを行い、“防ぎえる外傷死ゼロ”を目指します。

CHECK 3 ECMO(エクモ)を使用できる！

当院は、重症の呼吸不全、循環不全に対する人工心肺装置を用いた治療を行う ECMO センターがあり、数多くの症例に対応しています。重症の肺炎患者が県内で発生した場合は、患者さんが入院する病院へ向かい ECMO を装着し専門施設へ搬送します。また、遠方で発生した心肺停止患者の救命には従来の蘇生法だけでは不十分なため、病院外（ドクターカー内）から ECMO を装着することで、心肺停止患者の救命を目指しています。

機械を装着した状態での搬送は大きな危険を伴いますが、十分なスペースと資器材を有するドクターカーと、スペシャリストで構成された“U-CCETT”（ユーセット）を有効活用し、安全に患者さんを搬送できるよう最大限務めています。